

「Leave it Alone. (そっとしておけ。)」の本当の意

味とは？

ガンステッドの残した有名な言葉の中に「探せ、受け入れろ、正せ、そしてそっとしておけ (Leave it Alone.) 。」があります。「患者をほうっておけ！って意味？」それでどうするの？大丈夫なの？僕が学生の時は、恥ずかしながらはただ漠然とそう思っていました。

大学に入るため、ニュートン系物理学をベースにした理数科・医療科学を叩き込まれ、入学後も国会試験をパスするための勉強がメインで、大学の教育システムはというと訴訟問題の事前回避のため従来の医療機関に重篤な患者を早急に委ねることばかりを教え込まれていただけでした。そんな環境で「イネイト・インテリジェンス」という言葉を聞くことはもちろんありませんでしたし、ドクターとして働き始めた後も、自分の知識、経験や技術や新しい情報などを駆使して患者の状態を「何とかしてやろう！」と思えば思うほど、状況はなかなか改善しないケースばかりで、もがけばもがくほど悩みも深まり毎日が面白くありませんでした。

そんな僕に、読んだことがないカイロプラクターはモグリと言われるグリーンブックを恩師たちは読むことを勧めてくださいました。100年以上前に書かれたものですから、最初は何が書いてあるのかさっぱりわかりませんでした。何度も繰り返し触れていく中で徐々に読めるようになっていきました。

その中で一番衝撃的だったのが、B.J.パーマー著の22巻「ヤツの中に潜む偉大さ」でした。そこには、B.J.がどうやって「イネイト・インテリジェンス」の存在に出会い、受け入れ行動し委ねることが、最終的に最善の結果をもたらしたかを事細かにオムニバス形式で書かれていたのです。真っ暗闇の中に自分に眩しい光が差してきたような気がしました。その本に触れてからは、心の中がなんとなくすっとして、言葉には表せない堅固な確信と余裕を持てるようになっていきました。

より正確に魂を込めたアジャストメントを行い、生命に内秘められた崇高な叡智の無限のパワーと正確かつ精巧なデザイン；人為的な試みや浅はかな今の医学では到底太刀打ちできない、イネイト・インテリジェンスに謙虚に委ねる事が奇跡を起こす。だからこそ、今まであった頭の中の「教育されたマインド」ではなく、「it:ヤツの中に潜む偉大さ」に任せておけ！というのが、ガンステッドの伝えたかった「Leave it Alone: 放っておけ！」の本当の意味だったのではないのでしょうか？

(カイロタイムズ 2018年5月113号より)